



甲奴診療所 佐藤友紀所長 からの便り



[甲奴診療所近景]



診療所の患者数

- 1か月の患者数 → のべ800名
- 75歳以上 → 400名 (50%)
- 成人 → 300名 (38%)
- 小児 → 100名 (12%)

甲奴町は文化的に旧甲奴郡(上下町、総領町、甲奴町)に属し、行政的には三次市に属する人口3000人弱の町です。小さな町ですが民家と田畑と山並みが美しく配置された景観に目を奪われます。私が甲奴診療所に赴任したのは去年のことで、真っ黒な油瓦あぶらがわらに七宝紋なまこの海鼠壁を有する漆喰の白壁のコントラストが、新緑の鮮やかな緑に映え、悠然と立ち並ぶ姿に感動したことを思い出します。

甲奴町は周囲の町に医療機関はあるものの、町内に存在する医療機関としては当院が唯一とあって多くの方が診療所を訪ねてきます。

1日およそ60名、1ヶ月では約800名(複数回受診を1回とした場合)の方が受診し、400名が75歳以上の高齢者、300名が成人、100名が小児と年齢層は様々です。診ている患者は、慢性疾患の長期管理はもちろんですが、割に多いのが病気とまでいかないけど元気では



ないという症状を訴えて受診される方で、往々にして「いつもとは違う体調不良」という話になります。しかし、病気の最初の訴えが倦怠感や食欲不振であることは珍しくなく、体調不良から想起する病気は非常に多岐にわたります。そのため今までの自分の知識や経験をフルに生かし、一つの視点に固執せず柔軟に考える必要があります。できるだけ停滞しないように好奇心を持ち勉強していく必要があります。例えばしんどいという訴えでも赤芽球瘰による貧血からの冠動脈虚血症状であったり、閉塞性動脈硬化症による間歇性跛行であったり、高齢者の無熱性肺炎であったりと様々です。

私自身も赴任前は総合内科医として勤めておりましたが、現在は週に1回金曜日に三次中央病院で小児科を研修させていただいており、小児科の研鑽を努めています。専門科の奥の深さにも感嘆しながら、やはり訪ねてくる患者には100%で応えられるようにとの思いも出てきます。本を片手に同級生にメールで(写真を添えて)皮膚科の相談をしたり、腰痛や頭痛の患者の訴えに応えるべく鍼治療・経穴(つまりツボ)・

AKAなどを勉強したり、あるいは漢方を勉強する過程で数学を勉強したり、山に行きコケを収集したり、と半ば趣味も交えながらなのが仕事をしています。

診療以外では内科人間ドッグや保育所・小・中学校の校医を務めており、保健活動に重点を置いています。特に今年は保育所と連携し「診療所通信」なるものを立ち上げ、予防接種や感染症情報、病気のあれこれ、など保護者への啓発活動を行(うつもりで)います。個人的な研究としては地域の非交流性を活かして、先のインフルエンザ(pdmH1N1)の流行を分析し数理疫学的アプローチを用いて、より良い感染症制御を行う、といった取り組みをしています。いずれも地域の診療所ならではの仕事で、とても楽しいものです。

楽しいことと言えば、私ごとですが3月に長女が誕生しました。今も燕や蛙に交じりながら腹をすかせては泣いています。昼は南にそびえる弘法山からの薫風を浴びながらスヤスヤ寝ていました。夏には源氏・平家とホテルが乱舞して、冬にはオリオンが瞬きます。そんな甲奴町でノビノビと子育てができるということは、とても幸運なことなのだ毎日感じております。そして私も地域の方々が幸せを実感できるように、生きることを満喫できるように少しでも貢献したいと考えておりました。

佐藤友紀先生のプロフィール

平成16年 県立広島病院 臨床研修
平成18年 JA吉田総合病院 内科
平成21年 三次市健康保険 甲奴診療所

